

海洋再生エネルギー促進と地域の活性化のために

青森県海洋再生可能エネルギー発電事業「有望区域」連絡会設立

青森県海洋再生可能エネルギー発電事業「有望区域」連絡会設立総会が、4月11日(木)に青森市で行われました。この連絡会は、国が今後指定する洋上風力発電事業の「促進区域」に選ばれることを目標に、すでに事業計画がある海域の周辺自治体や関係団体で構成され、情報共有や関係機関への要望活動を行うために設立されました。また、漁業関係者へ理解を求め、地域振興について協議していく予定です。会長の佐々木孝昌五所川原市長は、地域の産業に触れながら「洋上風力への期待は大きく、地域の風況を利用しない手はない。連絡会では、風況の活用だけでなく地域振興や漁業活性化を目指したい」と話しました。連絡会発起人の濱館町長は、長崎県の五島列島沖に設置されている浮体式洋上風力発電での集魚効果に触れながら「漁業者に単なるお金のばらまきのような補償をするという形ではなく、一緒にやっていけると示すことが重要」と地域振興への意気込みを話しました。



発起人として設立趣意書を読み上げる濱館町長

【青森県海洋再生可能エネルギー発電事業「有望区域」連絡会構成団体】

- (1)五所川原市 (2)つがる市 (3)鱒ヶ沢町 (4)深浦町 (5)中泊町 (6)野辺地町 (7)横浜町
(8)西北水産振興会 (9)弘前大学地域戦略研究所

新採用職員を紹介します

①名前 ②所属 ③趣味・特技など ④ひと言



- ①石川 愛
②総務課 庶務係
③ギター、テニス
④町民のみなさんが困ったとき、身近で頼りがいのある存在になれるよう頑張ります。



- ①岡 駿岳
②農政課 農業支援係
③筋トレ、陸上
④中泊町の農業を盛り上げられるよう、できることを一つ一つ、一生懸命取り組みます。



- ①木村 拓哉
②町民課 国保年金係
③読書
④最少の経費で最大の効果を発揮できるよう、質の高い仕事を目指します。



- ①高松 沙智香
②町民課 戸籍住民係
③フルーツ
④窓口として、町民の皆さんを笑顔でお迎えし、ていねいで迅速な対応を心がけます。



- ①佐々木 一哉
②税務課 課税係
③料理、カラオケ、ウォーキング
④生まれ育った中泊町で働くことができ嬉しです。自身の経験を活かして頑張ります。



- ①吉田 拓
②社会教育課 社会教育係
③カラオケ、福山雅治のライブ観賞
④子どもたちがいつまでも豊かに、のびのびと暮らせる希望の町に向かって頑張ります。



- ①松橋 美穂
②水産商工観光課 観光係
③ウィンタースポーツ
④中泊町のPRを、全国はもちろん、海外まで届くよう、もっともっと「誇れる中泊町」を目指します。

3つの誓いを守っていじめを根絶

町内中学校でノーいじめ宣言

「いじめをしない・させない・見逃さない」の3つを宣誓し、いじめ根絶を目指すノーいじめ宣言・宣誓式が、4月19日(金)に小泊中学校で行われました。

小泊中学校では、いじめでよく見られる特徴や構造を学んで理解を深めたあと、クラス毎にいじめ根絶に向けた目標と取り組みを発表しました。生徒を代表して、生徒会長の長谷川千華さんが宣誓書を米塚教育長へ手渡しました。米塚教育長は「クラスメイトと仲良くして、長く付き合える人生の友人づくりを目指してください」と話しました。

ノーいじめ宣言・宣誓式は、4月22日(月)に中里中学校でも実施されました。



中里中学校



武田小学校

先輩に迎えられ、希望と決意を胸に

町内各校で入学式

新元号が発表され令和元年となる今年、次代を担う新入生たちが4月6日(土)、新たな学舎で入学式に臨みました。今年の新1年生は、小学校合計42人、中学校合計56人でした。

また、4月7日(日)には、中里高校でも入学式が行われ、11人の新入生が真新しい制服に袖を通し、式に臨みました。



中里高校

青信号、でも右を見て 左をみて

町内各地で街頭監視

新入学生の交通事故防止運動が、4月6日(土)から4月15日(月)まで行われました。

4月9日(火)には、濱館町長が津軽中里駅前の交差点に立ち、中里小学校の藤田成人校長先生や中里駐在所の警察官、そして交通指導安全監視員とともに交通安全を呼びかけました。

この活動は、児童や生徒の通学の安全と、交通安全意識啓発のために行われています。



地域の課題解決に向けて

弘前大学が研究成果を発表

弘前大学学長リーダーシップ経費事業として、地域の課題解決に向けた研究報告会が3月28日(木)に開催されました。この研究発表では、モデル地域に中泊町と外ヶ浜町が取り上げられ、バイオマスを活用した残渣処理や、小泊・下前漁港区の低層風エネルギー利用など、地域の特性を活かした研究発表で新事業の可能性を紹介しました。特に、小泊地域で行われている深層熱水(温泉水)を使ったフグの陸上養殖事業では、実際に養殖したフグの試食も行い、参加した人たちは、養殖事業の可能性に大いに期待を寄せていました。

最後の質疑応答では、興味を持った内容や再認識できた地域の魅力、そして今後の実証可能性に、質問や賛同の意見が交わされました。



愛を誓うメンバー再び

「津鉄ア・モーレ」辞令交付式・合同結成式

平成30年度から活動をしている、中泊町と五所川原市の若手職員で結成された津軽鉄道活性化促進チーム「津鉄ア・モーレ」。4月12日(金)に、中泊町の今年度の活動メンバーに濱館町長から辞令書が手渡されました。濱館町長は「津軽鉄道の利用者は、ここ数年約26万5千人で横ばいの状況が続き、目標の30万人に届いていない。経営状況は非常に厳しく、津軽鉄道の将来は皆さんにかかっていると看做してもいい。車両をまるごと背負う勢いで頑張ってください」と激励

しました。また、4月24日(木)には五所川原市役所で合同結成式が行われました。佐々木孝昌五所川原市長は「長らく地域の公共交通として、また観光資源としても活躍してきた津軽鉄道は、経営がこのままでは難しい状況。これからの行政を担う若い職員が、いろいろな取り組みをして欲しい」とエールを送りました。そして濱館町長は昨年の活動をねぎらいながら「昨年達成できなかった目標人数30万人あと約3万5千人。今年は40万人を目指す勢いで、津軽鉄道が地域の足として中泊町と五所川原市をつないで走っていけるよう、いろいろな取り組みに挑戦して欲しい」と津鉄愛あふれる若手職員の奮起を期待しました。

昨年到现在2度目の火入れ

ヨシ原の火入れ実験

岩木川下流に広がるヨシ原に、環境保全のため昨年に続いて2度目の火入れ実験が4月23日(火)に行われました。

これまで地域が伝統的に行ってたヨシの刈り取りや火入れが行われなくなってしまうことから、柳などの侵入が見られるようになり、環境劣化が進行しました。

そこで昨年、岩木川改修100周年を契機に「岩木川下流ヨシ原の火入れ検討会」が実施し、火入れの実証実験に至りました。貴重な動植物の生息・繁殖地である岩木川下流のヨシ原の環境改善と保持が期待されます。

